

地元人が案内する  
**西垂水**  
散策マップ  
地域の魅力を再発見！



写真提供：神戸市教育委員会

この地図は、垂水区民まちづくり会議・西垂水生活文化園部会において、まちづくり活動の一環として、まち歩きやワークショップを重ねて作成しました。  
マップを参考にまちを歩き、歴史を刻みながら発展してきた西垂水の魅力をみなさんにも感じていただければ幸いです。

**町名の由来**

西垂水には、歴史を引き継ぐ町名が多く残っています。町名の由来を知ることによって、昔の垂水を思い浮かべることができます。

**歌敷山**（うたしきやま）  
舞子ピラのあたりにあった炊（かしき）山古墳の「かしき」に歌敷の字をあてた山陽電気鉄道敷山駅の駅名に由来しています。

**大町**（おおまち）  
大町とは広い田の意味で、「まち」は田の区画を指します。

**海岸通**（かいがんどおり）  
昭和40年、海岸部の埋め立てに伴って名付けられました。

**霞ヶ丘**（かすみがおか）  
高台で霞がよくかかったことから、大正期に名付けられました。

**神田町**（かんだちょう）  
海神社所有の土地があったことから、この名がついています。

**向陽**（こうよう）  
日のあたる場所という意味から名付けられたようです。

**高丸**（たかまる）・**上高丸**（かみたかまる）・**陸ノ町**（がのちょう）  
もともとこのあたりの広い丘陵地は、高丸陸（たかまるくが）と呼ばれており、宅地開発が進んで、高丸・上高丸・陸に区分されるようになりました。

**天ノ下町**（てんのしたちょう）  
牛頭天王を祭った社（現在は高丸1丁目の八幡神社に合祀）の下、「天王下」がなまったものです。天神川の下にあたるから、という説もあります。

**仲田**（なかつた）  
両側を丘陵にはさまれた中の平地（田）からきています。

**馬場通**（ばばどおり）  
海神社への参道にあたり、この付近で競馬をさせ、1年の吉凶を占いました。

**日向**（ひゅうが）  
海神社は江戸時代まで「日向大明神」と呼ばれていたことがあり、これに由来します。松平日向守が今の霞ヶ丘あたりに新田を開墾するときに使った人達が多く住んでいたから、という説もあります。

**宮本町**（みやもとちょう）  
海神社が鎮座するところから名付けられました。

**歴史スポット**



- 1 池姫地蔵尊** D-6 陸ノ町  
昔、現在地の東北の台地に前の池、奥の池という大きな2つの池があり、昭和の初めに埋め立てられました。その時発見されたお地蔵様を池姫様と名づけてお祀りしています。線香の絶えることがなかった祠も、今では古くなり、建替えが予定されています。
- 2 御霊神社** D-6 御霊町  
源平合戦では、このあたりで多くの戦死者が、その霊を弔うために創建されました。大正末まではうっそうとした森だったといえます。現在は瑞丘八幡神社に合祀されていますが、その跡地には祠があります。
- 3 松平日向守供養石碑** C-5 霞ヶ丘2丁目  
江戸時代の初めに明石城主としてこの地を治めた松平重之公の供養碑で、垂水新田（今の霞ヶ丘あたり）の開墾を感謝して建立されたといえます。かつての天王橋の一部と霞ヶ丘命名碑も同じ場所に移動されています。

**4 遊女塚（宝篋印塔）** C-6 仲田1丁目  
南北朝時代の137年に造られた高さ3メートルの石塔です。旅人の無事や悪霊の流入を防ぐ願いの石塔と考えられています。弥生時代からの聖域であった遊女を供養したとも伝えられています。もともと海神社の西方、西園街道沿いに建てられていましたが、明治21年の鉄道開通時に今の場所に移動されました。県指定重要文化財です。

**5 五色塚古墳** B-6 五色山4丁目  
4世紀末から5世紀初めにかけて造られた県下最大の前方後円墳です。淡路島の五色浜から運んだ数十万個の色とりどりの敷石で造られたので五色と呼ばれるようになった、または、その形がコシキ（米を蒸すせいの古語）に似ていることから、五色と呼ばれるようになったともいわれています。9:00~16:45 開園（12月~3月は月曜休）078-707-3131

昔はうっそうとしていてマシが出ることもありましたが、石は今よりもきれいで、五色の丸い石でした。今はきれいに整備され、NPO法人輝かすみが丘が、一年中草を刈り取りに整備して見学者をお迎えしています。（N. Y）

五色塚古墳から海を臨めば、稜線がピンク色に染まります。波は穏やかで、ゆったり船が行きか姿は、太古の昔が想像されます。夕陽が沈めば、雲があかねに染まり、まさに絶景です。（S. M）

**6 瑞丘八幡神社（厄除八幡宮）** D-5 高丸1丁目  
旧西垂水村の氏神が祀られ、戦前は屋で暗い鎮守の森で、弥生時代からの聖域であったようですが、もともとは農耕の神でしたが、中世からは厄除開運の神にもなりました。昭和6年、今の天ノ下町にあった瑞丘社を合祀しています。毎年、1月18日~20日に厄除大祭、10月11日に秋祭が行われます。078-707-3654

**7 海神社（かいじんじや）** C-7 宮本町  
927年の「延喜式」にも名前がでてくる垂水を代表する神社です。底津綿津見、中津綿津見、上津綿津見の三神を祀っており、今から千数百年前、神功皇后の軍船が嵐に遭い、ここで三神に祈ったところ風波が収まったという伝説があります。毎年、夏祭は7月10~12日、秋祭は10月10~12日で12日に行われる海上渡御は有名です。078-707-0188

**8 西垂水戎神社** C-7 宮本町  
豊漁神で、漁師たちには全国至る所で祀られています。伝説では、淡路から葦舟に乗って蛭子（ひるこ）が浜に流れ着き、元気に成人した恵比寿さんを祀ったものといわれています。

阪神淡路大震災でご本堂が傷みまので新しくお造りしました。私共の身代わりになられたありがたい様です。（Y. J）

**区民の公園など**

- 19 高丸第2公園（咲香園）** D-4 高丸5丁目  
住宅地の中のかわいい小公園です。四季の花を美しく咲かせています。樹木のせん定も形よく手入れしていますので、通りがかりにちよっと立ち寄って、楽しんでください。（H. H）
- 20 上高丸北公園の名誉花壇** D-2 上高丸3丁目  
周辺の自治会等8団体が清掃と管理をしています。公園北側の花壇は「すてきなまちかど」として親しまれ、「市民花壇コンクール」ではいつも上位入賞しています。夏には「盆おどり」が催され、大勢の人で賑わいます。（N. H）
- 21 清水公園の名誉花壇** D-6 清水通  
**22 ゼラニウム街道** E-5 大町3丁目  
**23 千鳥が丘公園** E-3 千鳥が丘3丁目
- 24 大町公園** E-5 大町1丁目  
**25 瑞穂公園** D+E-6 瑞穂通

**9 海神社御旅所の碑** B-8 海岸通  
御旅所とは、神社の祭礼に神輿が本宮から渡御して、仮にとどまる所をいいます。海神社の秋祭りの内、特に10月12日は海上渡御祭と呼ばれています。

海上渡御祭では、御祭神が御座船に乗り、十数隻の御供船を従えて来られ、ここで西垂水の有様をご覧になり帰るとされています。その華やかな風景を是非ご覧下さい。（K. Y）

**10 高尾子安地蔵** C-7 五色山1丁目  
大正10年に現在地に移されたものです。これ以前は天神川の西側、河西町（現海岸通）の西端近くにあつたが、国道の拡幅のために、周りに数多く点在していた小さな地蔵尊も一緒に祀りました。

**11 垂水日向遺跡** D-7 日向1丁目  
縄文人が干潟を歩いていた痕跡が見つかった遺跡です。レバンテ垂水1番館地下1階のコープ南側入口前に、当時のものを復元した親子の足型などの展示コーナーや、イメージビデオの上映などを行っています。

**ウォーターフロント**

- 26 垂水漁港** C・D-8 宮本町~平磯3丁目  
神戸市の漁業の拠点地で、船曳網・小型定網などの漁船漁業やのり養殖業が盛んですが、活魚を市場へ搬出する中継基地としても大きな役割を果たしています。「垂水漁港のいかなご漁」は「獲れた日本の音風」にも選ばれています。
- 27 マリンピア神戸 さかなの学校** B-8 海岸通  
“塩づくり”“乾のりづくり”などの体験学習のほか、さまざまな展示を通して、神戸の漁業を紹介する施設です。周囲には海を見ながら憩えるベンチもあります。078-706-5550（水曜休）
- マリニピア神戸内施設、さかなの学校屋外に設置されているベンチより臨む、明石海峡大橋越しに夕陽が沈む眺望は、年間を通して、様々な形を変えて楽しむことができます。最高の癒しスポットですので是非一度お越し下さい。（N. M）
- 28 アジュール舞子** B-7 海岸通  
明石海峡大橋の雄大な人工美と海峡の自然美が調和する海浜スポーツ・レクリエーションゾーンとして整備されました。夏季には海水浴客で賑わいます。078-706-2011
- 垂水のまちのシンボルの一つ「明石海峡大橋」を一望できるアジュール舞子は、ちょっとした散歩からジョギングまで幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけるスポットです。心地良い浜風の中、暫し時を忘れてみませんか。（Y. Y）

**地域の自然**

- 福田川** 日向など  
福田川には、昔、コイやウナギなどがいっぱいおりました。50年ほど前には、よく親父に「カニ獲って来い!」と言われて、河口部でカニを獲って、食べたもんです。（K. M）
- 12 洞養寺の市民の木（あべまき・くろまつ）** C-6 天ノ下町  
洞養寺には市民の木が2本あります。1本は庫裏の北側に推定樹齢300年の老木で、もう1本は本殿の南側にある推定樹齢350年のクロマツです。（K. Y）
- 13 青木禅寺の市民の木（くろまつ）** C-6 旭が丘1丁目  
樹齢400年を越す老松です。形が帆掛け松とも又臥龍にも似ているところから、瑞龍（ずいりゅう）の松といわれています。「瀬戸の海を背に月に挂く、雪や絶景、播磨に冠たり」と歌われています。樹高は4m、枝張り13mを越す見事な瑞松です。（Y. J）

# 西垂水 散策マップ

地域の魅力を再発見!

## 凡例

- 学校・幼稚園
- 公園・緑地
- 郵便局
- 交番
- 主なトイレ
- おすすめスポット (裏に紹介文あり)
- ビュースポット
- 鉄道・駅
- バス路線・バス停
- その他の主要施設
- まち歩きおすすめルート
- 生活文化圏の境界



**垂水 (たるみ) って?**  
 「石(いわ)ばしる垂水の上のさ萩(わらび)の萌(も)え出づる春(はる)になりけるかも」(万葉集・志貴皇子)の歌からもわかるように、垂水は古語で滝のことを示します。須磨から垂水の海岸は絶壁となっているところが多く、滝がいくつもあったことから地名になったといわれています。

**神戸商大旧敷地の旧石器**  
 昭和25年頃、神戸商大の敷地拡大造成をしていた時、学生が旧石器の刃器(じんぎ)を発見しました。1万年以上も前に既に生活があった証ですが、残念なこと、その後、紛失してしまいました。

**中央部ルート**  
 急な坂や長い階段などがありますが、眺望のよい場所がたくさんあるルートです。

**堀割 (バス停)**  
 かつて、この北部から取水して下流の西垂水の田に水を引いており、ここに堀割が通されていた名残です。

**水道橋 (バス停)**  
 昭和30年ごろまでは、このあたりで福田川の水をせき止め、水道水として利用していたことの名残です。

**東ルート**  
 きれいな公園・花壇や福田川沿いを散策していただくルートです。

**クラブ前 (バス停)**  
 昭和初期、このあたりは宅地として開発され、当時、地域住民が集う施設(クラブ)があった名残です。

**福田川**  
 源平合戦の野戦があったところで、戈(ほこ)を田の中で交えたということから、戈田川と言っていたのが、変化して現在の名になった、という説があります。

**いちご狩り**  
 戦前は霞ヶ丘、歌敷山、五色山のあたりはいちご畑が広がっていました。現在の食用いちごは、16世紀にオランダからきたようですが、農産物として出荷しはじめたのは大正時代からです。昭和のはじめに、ここで一般に開放したのが、日本の観光いちご狩りのはじまりといわれています。

